

特集  
森林もり  
林りと暮らす



# 森林の現在

—森林の移り変わりと伊予市の現状—

私たちが暮らしている伊予市は、周囲を山と海に囲まれた自然豊かなまちです。森林は、春の新緑や夏の深緑、秋の紅葉など、四季折々の表情を見せ、いつも私たちの目を楽しませてくれています。しかし、現在の森林は以前と比べて、様子が変わっていることを皆さんも知っていますか。

◎森林の移り変わり  
もともと森林は、天然林が大部分を占めていましたが、戦時中や戦災都市復興のために木材の需要が増え、森林は大量に伐採され、ほとんど裸の状態になりました。これに対処するために、国は、国土緑化運動の推進や森林資源確保に力を注ぎ、人間の手によって植えられた人工林が急増しました。



しかし、昭和39年に木材の輸入が全面自由化となり、国産材よりも安い外国産材が市場に供給されたことで、昭和55年ごろをピークに、国産材の値段は下がり続け、それに伴って、林业に従事する人も減少の一途をたどっています。

◎伊予市の現状  
伊予市の森林は、市全体の面積の半分以上58.8%を占めており、その約6割が人工林となっています。林家数と森林面積の推移(右下グラフ)からみると、森林面積は少しづつ増加していますが、林家数は激減をしています。これにあわせて、管理の行き届かない人工林が増加しています。

人の手によって植えられた森林は、人が管理をしなければ、健全な森林としての機能を十分に発揮することができません。

木材価格の低迷や林业従事者の高齢化・担い手不足など、非常に厳しいといえる林业経営のなか、伊予市には森林を愛し、森林とともに暮らす方たちがいます。

## 伊予市の森林データ

伊予市の総面積 19,447ha  
伊予市の森林面積 11,429ha (58.8%)

### ◎森林の所有形態

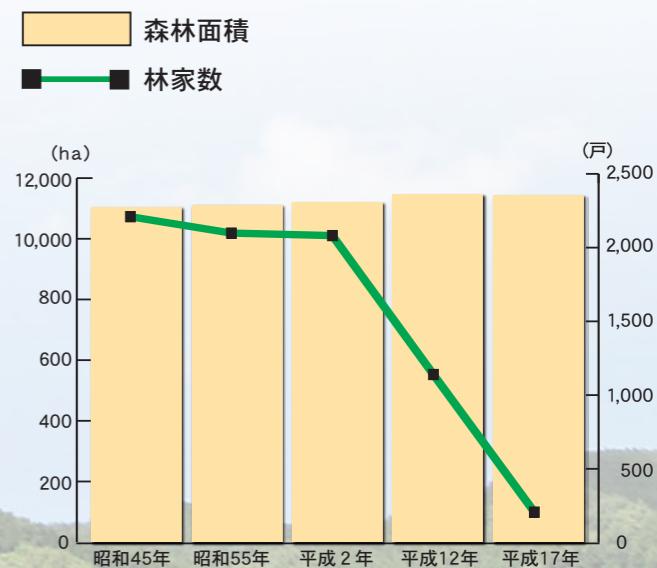
国有林 121ha  
民有林 11,241ha

### ◎森林の林種別

人工林面積 6,694ha (58.6%)  
(スギ・ヒノキ・マツ・クヌギ等)  
天然林面積 3,993ha (34.9%)  
(マツ・カシ・シイ・ナラ・クヌギ等)

### ■伊予市の林家数と森林面積の推移

「農林業センサス調べ」



◎林業の担い手  
窪中良樹さん(31歳)は、岐阜県の林业大学校を卒業後、奈良県にある磨き丸太を専門に扱う材木会社に就職。23歳で生まれ育った中山町に帰郷しました。  
現在、良樹さんは、夏秋トマトや観光イチゴ園などの農業を行いながら、原木しいたけ栽培、スギ15ヘクタールの山磨き丸太5ヘクタールの山林を父(修一さん)とともに管理しています。  
「中学・高校時代、父の手伝いをしているうちに山に魅力を感じ、林业の道に進む選択をしました。」「現在の林业を取り巻く情勢は非常に厳しく、林业だけでは生活できないのが現状です。もし、これだけで暮らしていくのなら、専業にしたいくらい私は山が大好きです。」「しかし、林业經營が厳しかったといって、山を放つておくわけにはいきません。私の代で林业の景気が回復しないでも、私たちの娘のためには、代々受け継がれたこの山を守っていきたいです。」  
※3ページの写真は、良樹さんと父(修一さん)が磨き丸太の管理をしている様子。



# 森林で働く

健全な森林をつくるー



## ◎プロシーズ

株式会社プロシーズは、地域農林業の担い手として、平成6年5月に設立された第3セクターで、主に市内の森林の整備を行っています。

現在14人の従業員は、山主（山林所有者）に代わって、木の間伐や雑草の下刈り、植林など、年間150ヘクタールの森林を伊予森林組合と連携しながら整備しています。

○従業員に話を聞きました



平林 盛二さん  
(中山町中山)

平林さんは、高校を卒業後、株式会社プロシーズに就職し、現在入社15年目。「植林して、苗木が大きくなるまでには、除草作業をしなければならないのですが、夏場の下草刈りは正直たいへんです。しかし、自分たちが整備した森林が生き生きと成長する様子を見たり、チェーンソーを使って木を伐採するときに、この仕事のやりがいを感じます」

## ○間伐をした森林

間伐をした林内は、多くの光が降り注ぎ、幹が太く枝葉もしつかりとした健全な利用価値の高い木が育ちます。また、地中にはしつかりと根を張ってくれることから、雨水の浸透量や保水量が多くなり、水源涵養機能が高まるなど、将来、健全で活力ある森林へと育ってくれます。

また、適切な間伐を実施した森林は、未実施の森林に比べて、二酸化炭素吸収量が多くなるといわれていることから、多くの森林を間伐することによって、地球温暖化防止に貢献できるのです。

○伊予市の取り組み

このようなか、市では、今後の山林の間伐を進めるため「特定間伐等促進計画」を策定しています。主に中山地区・双海地区の森林を平成20年度から平成24年度までの5年間で約900ヘクタール間伐するもので、地球環境の保全、中山間地域の活性化、山林災害の防止を図っています。など、健全な森林づくりを目指していきます。

## ◎「間伐」の重要性

間伐とは、木が大きく成長すると、隣の木と枝葉が混み合って過密状態となってしまうため、それを解消するために、抜き切りをする作業のことです（左図参照）。

過密状態となつた林内には光が入らず、利用価値の低い木材となってしまいます。また、地表にも下草が生えないと、土がぬき出しどおり、大雨が降つたときには表土が雨水とともに流れやすくなつて、土砂災害の原因にもなるのです。



**生産資源としての森林**

森林から供給される木材は、建築材料や家具材料として、また薪や木炭などのエネルギー源として、さまざまに用途に利用されています。

これ以外にも、きのこ類・山菜類・薬草類が採れるなど、森林からの恵みは多岐にわたりっています。

このように森林が、私たちの豊かな生活の実現に寄与していることを忘れてはなりません。

# 森林の恵み

—私たちには森林の恩恵を受けています—

昔から森林は、きれいな空気や水をつくりだす「命の源」として、また、生産の場として、人が生活する上でなくてはならない大切なものです。

森林は、地球温暖化をもたらす過剰な二酸化炭素を光合成によって吸収・貯蔵するなど、空気を浄化する機能を持っています。

また、健全な森林の土壤は、スポンジのようになつており、降つた雨を地中に浸透させ、ゆっくりと河川に流すことが「緑のダム」と呼ばれ、台風や梅雨などの大雨時には、洪水や土砂災害を防いだり、渇水を緩和する働きがあります。

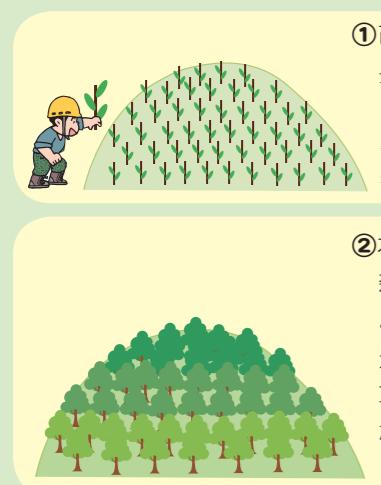
## 環境資源としての森林

森林は、地球温暖化をもたらす過剰な二酸化炭素を光合成によって吸収・貯蔵するなど、空気を浄化する機能を持っています。

これ以外にも、きのこ類・山菜類・薬草類が採れるなど、森林からの恵みは多岐にわたりっています。

このように森林が、私たちの豊かな生活の実現に寄与していることを忘れてはなりません。

## 間伐ってなに？



①苗木を高密度に植え、成長に応じて間伐を繰り返し、良質な木材を生産する技術が受け継がれています。



③そこで、間伐が必要になります。間伐をすると、残された木は日光をたくさん浴びて、さらに大きく育ちます。

②木が大きくなるにつれて森林は混み合ってきます。このままでは、地面に日光が当たらないため、下草が生えず、土が侵食され、保水力が低下します。

④②と③を繰り返して木は立派に育ちます。そして間伐によって地面に日光が当たり、しっかりした根を張り、また、草木が生い茂り、緑のダムといわれる保水機能を発揮します。